

平成 27 年度 第 11 回 水辺とみなとのまち部会		会議概要
日 時	平成 28 年 3 月 15 日 (火) 15 : 00 ~ 17 : 30	
会 場	市役所分館 5 階 501 会議室	
出席委員	藤田委員, 田村 (幸) 委員, 青木委員, 大堀委員, 関谷委員, 豊嶋委員, 小島委員, 渡辺委員, 大坂委員	
欠席委員	外内委員, 星野委員	
事 務 局	小柳主幹	
コンサルタント	エヌシーイー株式会社 1 名	
会議内容 及び 決定事項 等	<p>1 開港 150 周年記念事業調査結果報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コンサルタント会社よりアンケート集計の報告 ○回収率 (最終) : 84.2% (32/38 件) ・他港を参考にしながら, 新潟ならではの特色を出すアイデアなど, 開港 150 周年に携わる関係部署等に参考にしてもらいたい。 <p>2 下町地域コミュニティ協議会・まちづくり団体との情報交換会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実施日時 : 2 月 25 日 (木) 14 : 00 ~ 16 : 30 ○会場 : 二葉コミュニティハウス 4 階 多目的ホール ○参加団体 : 9 団体・16 名 ・とても活発な意見が出て有意義な時間であった。 <p>3 「夏休み社会科体験『訪ねよう! 北前船物語』」企画</p> <ul style="list-style-type: none"> ○巡回コースの確認 A コース (日和山コース) : 7 月 23 日 (土) 予定 ⇒昼食場所の再検討 B コース (沼垂発酵コース) : 8 月 18 日 (木) 予定 ⇒コース順路の変更 (沼垂白山神社工事のため) C コース (西大畑コース) : 8 月 28 日 (日) 予定 ⇒昼食場所の再検討 ○終了時刻は 15 : 00 を目途とする。 ○参加費は一律 1,000 円 ○今後の作業予定として, 4 月 4 日, 5 日に各コースをグループ分けして下見を行う。また, 「みなとびあ」への資料手配やガイド依頼については, 座長・事務局にて対応し, しおり作成は委員とガイドを含めて検討する。 <p>4 27 年度提案事業評価 (案) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ (案) を各委員持ち帰り検証し, 次回部会にて最終決定する。 	
その他		

平成 27 年度 水辺とみなとのまち部会 下町地域情報交換会 会議概要	
日 時	平成 28 年 2 月 25 日 (木) 14 : 00 ~ 16 : 30
会 場	二葉コミュニティハウス 4 階 多目的ホール
出席委員	藤田委員, 田村 (幸) 委員, 外内委員, 青木委員, 大堀委員, 豊嶋委員, 小島委員
欠席委員	関谷委員, 星野委員, 渡辺委員, 大坂委員
事 務 局	長浜地域課長, 外川副主査
コンサルタント	エヌシーイー株式会社 2 名
会 議 名	下町地域コミュニティ協議会・まちづくり団体との情報交換会
会議次第	<p>第 1 部 (司会・進行: 外内委員)</p> <p>①挨拶…長浜地域課長</p> <p>②自己紹介…コミ協, まちづくり団体 (活動報告を兼ねて)</p> <p>③開催趣旨・部会活動報告…藤田座長 (前期提言に触れながら)</p> <p>第 2 部 (司会・進行: コンサルタント)</p> <p>①開港記念調査報告…コンサルタント</p> <p>②情報交換会</p> <p> テーマ 1 : 少子高齢化や人口減少対策など下町地域のまちづくり</p> <p> テーマ 2 : 開港 150 周年に向けてどう関わると効果的か</p> <p>③まとめ…藤田座長</p> <p>④閉会挨拶…大堀委員 16 : 30 終了</p>
会議内容	<p>情報交換会での主な意見</p> <p>○市民にとって新潟市は港町のイメージがあるか。下町=港町の象徴としての意識があるか。</p> <p>○掘割の埋め立て後の生まれなので, 堀が無いことでの港町新潟の魅力はわからない。早川堀や, あるものを生かして港町の小路, 日和山を発信することも大事では。</p> <p>○下町で温泉は掘れないか。今あるものを活用して住民がいいなと思うものを提案してはどうか。</p> <p>○育った町に関心を持つ教育が必要で, 新潟から移転しても, 移転先と故郷の歴史的つながりを探る考えがあればいい。</p> <p>○門前町の上古町, 醸造町の沼垂は, 特徴を端的に捉えて成功している。共通の目標を持つことが大事。下町はどうか。港だろう。</p> <p>○旧小澤家住宅は江戸時代からの蔵が残る港町を語れる場所。下町は歴史的建物が非常に多い。そのことを認識すると新潟の港町はまだ残っている。</p> <p>○他の 150 周年の事例を参考に未来の港町はどういう風に作るのかというテ</p>

	<p>ーマを持ったほうがいい。</p> <p>○記念誌は後で振り返られる資料として大事。一過性のイベントではなく、やはり子どもが体験できること。案内されるという受け身ではなく、子どもたちがガイドするなど、発信できる側になれるような仕組みづくりが大事。</p> <p>○専用HPを開設してほしい。港町新潟の今昔の写真、昔の堀、船の出入りなど150周年に向けて発信が大切。</p> <p>○港と堀の差が今の子にはある。港と堀を上手く説明してから150周年を迎えたほうがいい。</p> <p>○観光業者が新潟島・下町地域をメニュー化できないのは、大型車が入れる駐車場が無いからであり、環境整備が必要。</p> <p>○今の住民が住み続けられるまちづくり、路地を残す。長い目で見たとき、景観を守ることが人口の増加にもつながるのでは。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
その他	